

2020 年度 国際漁業学会大会個別報告プログラム

座長	報告課題・報告者	座長	報告課題・報告者
(OATFC 株式会社) 綿貫尚彦	1. ミャンマーにおける水産業の発展可能性  近畿大学 山本祥孝・多田稔	(水産研究教育機構) 宮田 勉	8. 岩手県における定置網漁業の漁獲組成の変動  東京海洋大学 及川光
	2. 新技術の普及と在地の論理 —フィリピン・アルタバス町の垂下式カキ養殖と gutom の論理—  東海大学 小林孝広		9. 日本における海洋産業の規模推計と時系列変化の特質  東京海洋大学 毛蕾・婁小波
	3. Inland fisheries management in Argentina: comparative analysis of regional artisanal fishing  Kobe University Hazuki Matsuda	(三重大学) 山田二久次	10. 2国3財での漁業資源財の入った貿易  専修大学 小川健
4. 美味しさの見える化に対する消費者評価—魚用体脂肪計を用いたブランド化に注目して—  三重大学 山田二久次、東京海洋大学 松井隆宏	11. 世界市場における日本のカキに対するブランド価値  水産研究・教育機構 若松宏樹・宮田勉・神山龍太郎		
(東京海洋大学) 大石太郎	5. オイスターバー向け殻付カキの外観品質評価～表明選好による潜在クラス分析～  水産研究・教育機構 宮田勉・神山龍太郎・若松宏樹	報告時間は 17 分とします。説明文の場合は 17 分と相応の分量とします。詳細は国際漁業学会 Website の大会情報をご覧ください「国際漁業学会 2020 年度大会の方法変更に関するお知らせ（第三報）」。	
(東京海洋大学) 中原尚知	6. 輸入タラバガニの流通構造に関する分析  水産庁 村井彩子		
	7. 殻付きカキ養殖における生産工程別投下労働量の地域性  水産研究・教育機構 神山龍太郎・宮田勉・若松宏樹		